

CASBEE[®] あいち

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

■ 評価結果 ■

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社豊田自動織機 刈谷織機工場再編 106西棟	階数	地下0階、地上2階
建設地	愛知県刈谷市豊田町2丁目1-1-1-2、17番1-1-1-10-1-104-1-105-1-106-1-107、27番1-1-1-108-1-109-1-110-1-111-112	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	10 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,080 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年7月 予定	評価の実施日	2025年7月28日
敷地面積	4,994 m ²	作成者	河野 勝宣
建築面積	2,493 m ²	確認日	2025年7月28日
延床面積	2,392 m ²	確認者	河野 勝宣

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

	建設	修繕・更新・解体	運用	オンサイト	オフサイト	合計
① 参照値	10	10	30	10	10	70
② 建築物の取組み	10	10	25	10	10	65
③ 上記+②以外の	0	0	15	0	0	15
④ 上記+	0	0	15	0	0	15

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

[illegible]

3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.2	1.0
	
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	0.0 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.2	1.0
	
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	なし
	<建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材>
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$
$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$


CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社豊田自動織機 刈谷織機工場再編 106西棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									2.8
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル		工場については「Q1室内環境」と「Q2.1機能性」の評価では主に居住エリア(事務所等)を評価の対象とし、生産エリアは評価対象外とする。	3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音			-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音			-	-	-	-	-	-	-
2 温熱環境									
2.1 室温制御			-	-	-	-	-	-	-
1 室温			3.0	-	-	-	-	-	-
2 外皮性能			3.0	-	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御			3.0	-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式			3.0	-	-	-	-	-	-
3 光・視環境									
3.1 昼光利用			-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率			3.0	-	-	-	-	-	-
2 方位別開口			3.0	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備			3.0	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策			-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御			5.0	-	-	-	-	-	-
3.3 照度			3.0	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御			3.0	-	-	-	-	-	-
4 空気質環境									
4.1 発生源対策			-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質			3.0	-	-	-	-	-	-
4.2 換気			-	-	-	-	-	-	-
1 換気量			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然換気性能			3.0	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理			-	-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能					0.43				3.4
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性			-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	-
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理			-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性			0.5	3.0	0.52				3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.4	3.0	0.48				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	3.3	0.33				
1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.23				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			-	3.0	0.23				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.09				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要用途上位3種の2種以上にBを使用し、Eを使用しない。	-	5.0	0.15				
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23				
2.4 信頼性			0.1	2.8	0.19				
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20				
3 電気設備			3.0	3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20				
5 通信・情報設備			3.0	2.0	0.20				

3 対応性・更新性				0.4	3.9	0.48	-	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高=9.815m≧3.9m。	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.02<0.1。	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.8	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	空調エリア)天井スペースのゆとり有り(H=6.8mに対してCH=2.7m、他直天)。	-	4.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		ケーブルラックを敷設。	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		ケーブルラックを敷設。	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		予備スペースを十分に確保。	3.0	4.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.57	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.85	3.0	2.7	0.63	-	-	-	2.7
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護				0.1	3.6	0.15	-	-	-	3.6
1.1	節水		自動水栓及び節水型便器を設置有り。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.3	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		工水利用有り。	3.0	4.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1	材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率93%	-	3.2	0.33	-	-	-	3.2
2 地域環境への配慮				0.3	3.3	0.33	-	-	-	3.3
2.1	大気汚染防止		燃焼機器の使用なし。	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.5	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
2	振動	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
3	悪臭			-	3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		「光害対策ガイドライン」「広告物照明の扱い」とともに過半を満たす。	-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社豊田自動織機 刈谷織機工場再編 106西棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	3.2
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 株式会社豊田自動織機 刈谷織機工場再編 106西棟

計画上の配慮事項	
総合	外壁は断熱サンドイッチパネルを採用し、外壁に設置する開口部の数量をできる限り少なくし、省エネルギー性に配慮し、冷暖房負荷を軽減し、環境負荷を低く抑えられる建物となるように配慮した。
Q1 室内環境	断熱パネルを採用し、外部からの熱影響や騒音等を低減できるように室内環境に配慮した。 (工場単一用途のため、評価対象外とする)
Q2 サービス性能	配管について、空調配管・給湯配管ともに、耐用年数の長い物を採用したほか、長期に建物を使用するにあたり、用途変更や設備システムの変更・増強が生じても、建物の機能維持に支障がないよう、階高の担保、室の配置計画を行った。
Q3 室外環境(敷地内)	ピロティ・庇などを設けることにより雨宿り、待合わせに供する空間を演出した。 また、排熱を伴う空調設備については、室外機のほとんどをGL+10m以上に設置し、敷地内歩行者空間等の暑熱環境を緩和するよう努めた。
LR1 エネルギー	建物内設備にはLED照明等高効率設備を採用することで、建物から発生するエネルギー量の低減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	便器については100%節水型便器を採用した。
LR3 敷地外環境	建設に伴って発生するCO2の発生量を低く抑えることで、地球温暖化に配慮した。 また、光害(ひかりがい)対策として、「光害対策ガイドライン」「広告物照明における光害対策」のガイドラインを過半を満たすよう努めた。
その他	